



学力向上を目指して

この度、令和8年度全国学力・学習状況調査（令和8年4月23日実施 対象：小学6年生、中学3年生）の結果が示されました。これは、学力や学習状況を測る一つの指標ですので、調査結果を真摯に受け止め、課題を共有して、学校や家庭における「子供の学び」に対する意識を高めなければならないと考えています。

一人一人の子供の力を最大限に引き出し、学力を身に付けさせることが、子供の自尊感情を高め、将来を切り開く原動力となるという思いに立ち、教育委員会と学校、家庭、地域が、それぞれの立場から連携して子供たちの学力向上を目指した取組を進めていきます。

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果

- 1 教科に関する調査 ※県、市における平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数表記となっているので、（1）結果の概要 全国の平均正答率においても、四捨五入した整数表記にしています。
- 【小学校】 【中学校】 中学校英語は、平均IRITスコアを平均正答率として表示しています。

調査問題	平均正答率		
	西海市	長崎県	全国
国語	55	61	60.9
算数	52	55	56.4

調査問題	平均正答率		
	西海市	長崎県	全国
国語	62	63	63.9
数学	50	56	57
英語	48.6	48.3	49.9

- （2）調査結果にみる本市の課題（○…よい傾向 ●…課題）
- ◇国語
- 資料を活用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。（小）
 - 必要に応じて質問しながら内容を捉えたり、目的や場面に応じて情報を整理したりすること。（中）
 - 話の中心を明確にして構成を考えたり、筋道の通った文章の展開を考えたりすること。（小）
 - 読み手や目的を意識して文章を推敲したり、根拠を明確にして考えを記述したりすること。（中）
- ◇算数・数学
- 小数の仕組みや体積など、数量や図形に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。（小）
 - 正の数・負の数や文字式、確率など、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている。（中）
 - 日常生活の場面から必要な情報を整理し、数量の関係を式や言葉を用いて説明したり、理由を記述したりすること。（小）
 - 事柄が成り立つ理由や問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明したり、図形や関数、データを関連付けて考察・判断したりすること。（中）
- ◇英語
- 日常的な話題について、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりすることができる。
 - 社会的な話題について、自分の考えやその理由を英語でまとまりのある文章として表現したり、要点を踏まえて書いたりすることに課題がある。



【調査結果のまとめと今後に向けて】

各教科の結果から、基礎的・基本的な知識や技能については一定の定着が見られるものの、学習した内容を活用して課題を解決したり、根拠を明確にして自分の考えを論理的に説明・表現したりする力に課題が見られます。また、学習した内容を関連付けて考えたり、自分の考えを相手に分かりやすく伝えたりする力を一層育成していく必要があります。

今後は、各教科において、目的や相手を意識しながら自分の考えを整理し、理由や根拠を明確にして説明したり、記述したりする学習活動を充実させるとともに、教科横断的な言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を一層推進していきます。また、児童生徒一人一人が「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを進め、主体的に学び続ける力を育成していきます。

2 質問紙調査

- （1）児童生徒質問紙（一部抜粋）
- ***・・・全国を3ポイント以上上回る ***・・・全国を3ポイント以上下回る
- | 質問事項 | | 小学6年生 | | 中学3年生 | |
|------|--|-------|------|-------|------|
| | | 本市 | 全国 | 本市 | 全国 |
| 1 | 朝食を毎日食べている。 | 93.8 | 93.3 | 92.7 | 90.9 |
| 2 | 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 | 84.4 | 82.8 | 88.3 | 80.5 |
| 3 | 将来の夢や目標を持っていますか。 | 77.6 | 81.8 | 66.3 | 67.6 |
| 4 | 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。 | 95.0 | 95.0 | 97.0 | 95.9 |
| 5 | 友達関係に満足していますか。 | 92.6 | 91.1 | 93.2 | 91.2 |
| 6 | 平日、学校の授業以外に、1日当たり、1時間以上勉強している。
（中学生は2時間以上） | 38.8 | 49.9 | 18.4 | 30.1 |
| 7 | 休日、1日当たり、2時間以上勉強している。
（中学生は3時間以上） | 3.1 | 5.0 | 8.0 | 13.1 |
| 8 | 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く） | 57.6 | 61.2 | 74.9 | 73.0 |
| 9 | 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。 | 69.4 | 79.4 | 82.8 | 78.2 |
| 10 | 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見通し、次の学習につなげることができていますか。 | 63.2 | 78.4 | 80.4 | 79.0 |
- （2）調査結果にみる本市の児童生徒の傾向と課題（○…よい傾向 ●…課題）
- 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童生徒の割合は全国平均と同程度または上回っており、基本的な生活習慣が概ね身に付いている。小・中学校を通して、望ましい生活リズムの定着が見られる。
 - 「友達関係に満足している」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っており、安心して学校生活を送ることができる人間関係が築かれている。
 - 中学生では、「分からないことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答した割合が全国平均を上回っており、主体的に学ぶ力が育ってきている。
 - 「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を下回っており、キャリア教育やふるさと教育の一層の充実が求められる。
 - 平日・休日ともに学校の授業以外で学習する時間は、小・中学校とも全国平均を下回っており、家庭学習の習慣化と学習時間の確保が課題である。
 - 小学校では、自分で学び方を工夫したり、学習を振り返って次の学習につなげたりすることに課題が見られることから、主体的に学習を調整する力の育成が必要である。

【調査結果のまとめと今後に向けて】

質問紙調査の結果から、基本的な生活習慣や友達との良好な人間関係など、学びの土台となる環境が整っていることがうかがえます。また、特に中学生は、自ら学び方を工夫したり、主体的に取り組んだりする姿が見られ、本市が進める学力向上の取組の成果が表れています。一方で、家庭学習時間の確保や、小学生における主体的に学習を調整する力の育成、将来の夢や目標をもって学ぶ意欲の向上については、引き続き取り組む必要があります。

今後も、学校・家庭・地域が連携し、「西海市学力向上5アッププロジェクト」を推進するとともに、児童生徒一人一人が学ぶ楽しさや成長を実感し、自ら学びに向かう力を育む教育活動の充実を図っていきます。

家庭の取組

◇全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙調査の結果から、次のような「めざす具体的な姿」について、御家庭で話し合ってみましょう。そして、現在の自分の姿と照らし合わせて5段階で自己評価をするとともに、それに対して励ましの声をかけてみるなど、御家庭で活用してください。



【自己評価日：令和8年 月 日】

	めざす具体的な姿	自己評価
1	毎日、（ ）時（ ）分までに起きる。	
2	毎日、朝食は、（ ）時（ ）分に食べる。	
3	毎日、（ ）時（ ）分までに寝る。	
4	平日（月曜から金曜）、学校以外で（ ）分ぐらい学習する。	
5	休日（土曜と日曜）、（ ）分ぐらい学習する。	
6	テレビゲームやSNS、動画の視聴などは、1日（ ）分までにする。	
7	家の人と決めた約束は守る。	

★自己評価
5：よくできている 4：だいたいできている 3：ときどきできている
2：あまりできていない 1：全くできていない

保護者からのコメント

学校の取組

◇学校では、全国学力・学習状況調査の結果を受け、次のような授業に努めます。また、学校の課題に応じた学力向上アクションプランを作成し、課題の改善に努めます。

- 授業のはじめに学習のめあてを設定し、授業の終わりに「できるようになったこと」と「まだ、できるようになっていないこと」を確認し、まとめる。
- 授業内容を振り返ることができるような、子供に分かりやすく効果的な板書を行う。
- 子供から複数の意見が出るような問いを発し、その共通点と相違点を明らかにしながら、より良い意見となるよう考えさせる。
- 「なぜそうなるか？」について考えさせ、子供に言葉で説明させる場面を設定する。
- 「総合的な学習の時間」において児童生徒自身が自分なりの課題を設定でき、課題を解決するために調べ、追究できるような学習の流れにする。
- 同じ地区の小学校と中学校が連携し、家庭学習の質や量の充実を図る。
- 1人1台端末（クロームブック）を授業や家庭学習で活用する。

西海市の取組

◇西海市教育委員会では、令和7年4月から新たな学力向上の取組として、「西海市学力向上5アッププロジェクト」を立ち上げました。今年度は、プロジェクト2年目の取組を進めています。各学校、家庭・地域、教育委員会が一体となって取組を展開することで、「主体的に学びに向かう子供」を育成し、市全体の学力向上を目指します。具体的には、「学びに向かうモチベーションアップ」を中心とした以下の5つのプロジェクトを展開、推進していきます。

- 【5アッププロジェクト】
- 学びに向かうモチベーションアップ
 - ・各学校における校内研究の充実 ・メタバースを活用したオンライン学習会の実施
 - ・学びの土台となる基本的な生活習慣の徹底
 - I C T活用・教育D Xのレベルアップ
 - ・WebQ Uを活用した学級づくり ・学校ホームページや保護者連絡ツールの活用
 - ・長崎総合科学大学と連携した取組
 - 教職員のスキルアップ
 - ・希望参加型の研修会の充実 ・次世代リーダー育成型研修会の開催
 - ・大学教授等、専門家を講師に招いた研修会の開催
 - 英語力向上のチャレンジアップ
 - ・各地区で小中連携の取組を推進 ・指導主事による研修会の開催及び授業づくり支援
 - ・家庭学習における英語アプリの活用
 - 学校や地域からのボトムアップ
 - ・全教職員を対象としてアンケートの実施 ・学力向上推進会議・小中連携検討会議の開催
 - ・コミュニティ・スクールにおける学力向上の取組